

国際政治

50

国際政治学のアプローチ

日本国際政治学会編

- | | |
|---|-----------|
| 国際政治統合の理論的考察
——行動主義アプローチの試み—— | 鴨 武彦 |
| リンケッジ・ポリティックスの位置
——国際システム論との関係において—— | 藪野 祐三 |
| 官僚政治モデル
——その特質と評価—— | 進藤 榮一 |
| 国家間交渉における「非正式接触者」の機能
——日本とアメリカの対外交渉を中心に—— | 西原 正 |
| <hr/> | |
| <研究ノート> | |
| 国家安全保障理論のモデル化について | 志鳥 学修 |
| <hr/> | |
| <書評> | |
| ジョセフ・フランケル著
『現代国際関係理論と国家行動』 | 花井 等 |
| レオン・N・リンドバーグ、スチュアート・A・シャインゴールド共著
『ヨーロッパ政体の未来像』 | 鴨 武彦 |
| チャールズ・ペントランド著
『国際政治理論とヨーロッパ統合』 | 南 義清 |
| ロバート・O・コーエン、ジョセフ・S・ナイ・ジュニア共編
『トランスナショナルな関係と世界政治』 | 石川 一雄 |
| ブルース・ククリック著
『アメリカの政策とドイツの分割—賠償をめぐるソ連との衝突』 | 斎藤 勝弥 |
| ガブリエル・コルコ著 『戦争の政治学
—1943年から1945年に至る世界と米外交政策』 | 田中 勇 |
| 日本国際問題研究所インドネシア部会編・播里枝監修
『インドネシア資料集・1945—1967』二巻 | 谷川榮彦、木村宏恒 |
| <hr/> | |
| マルクス主義歴史の退廃——歴史学研究会編『太平洋戦争史』第六巻について | 信夫 清三郎 |

1974年刊1973No. 2